

2013(平成25)年9月 実施

第42回 足立区政に関する世論調査

定住性／大震災などの災害への備え／区の情報発信のあり方／
健康／ビューティフル・ウィンドウズ運動／
環境・地域活動／「孤立ゼロプロジェクト」など／ユニバーサルデザイン／区取り組み

はじめに

区の「重点プロジェクト」の進行状況を評価いただく区民評価委員の皆様から、「事業の周知が十分でなく、区民に情報が行き届いていない」と毎回ご指摘をいただいております。区でも平素から、テレビ・新聞・広報紙・ホームページ・Aメール・ツイッターなど、あらゆる媒体を通じて情報発信に努めておりますが、決して十分とはいえない状態です。そこで毎年3千人の区民の皆様にご協力をいただき、「足立区政に関する世論調査」を行い、実態の把握に努めております。

この度、調査結果がまとまりましたので、ご報告申し上げます。今後とも誇りや愛着を持って、区民の皆様から「住み続けたい」と思われるまちづくりに一層力を注いでまいりますので、皆様のご理解ご協力、何よりもご参画をよろしくお願い申し上げます。

平成26年3月

足立区長 近藤 やよい

目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	3
2. 調査の内容	3
3. 調査の設計	3
4. 調査ブロック	4
5. 調査方法	5
6. 回収結果	5
7. 報告書の見方	7
8. 標本構成	10
第2章 調査結果の要約	15
1. 定住性	17
2. 大震災などの災害への備え	18
3. 区の情報発信のあり方	19
4. 健康	20
5. ビューティフル・ウィンドウズ運動	21
6. 環境・地域活動	22
7. 「孤立ゼロプロジェクト」など	23
8. ユニバーサルデザイン	24
9. 区の取り組み	25
第3章 調査結果の分析	27
1. 定住性	31
(1) 居住地域の評価	31
(2) 居住地域評価の経年比較	40
(3) 地域の暮らしやすさ	45
(4) 特に暮らしにくいと感ずること	50
(5) 定住意向	53
2. 大震災などの災害への備え	63
(1) 備蓄や防災用具などの用意	63
(2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容	67
(3) 備蓄量	70
(4) 災害発生時の水や食料の確保	75
(5) 家具類の転倒・落下・移動防止対策	78
(6) 対策をしていない理由	81
(7) 家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知	83
(8) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと	87
3. 区の情報発信のあり方	93

(1) 区に関する情報の入手手段	93
(2) 区が発信する必要がある情報	96
(3) 必要な時に必要とする区の情報入手状況	98
(4) 区の情報得られない理由	100
4. 健康	103
(1) 糖尿病の認知状況	103
(2) 糖尿病の進行による病気や障がいの認識	105
(3) 食事の際に野菜から食べ始めることが、糖尿病予防に効果があることの認知	107
(4) 1日野菜350g以上の摂取	109
(5) 体調や習慣	111
(6) 健康維持のために実行している、心がけているもの	116
5. ビューティフル・ウィンドウズ運動	121
(1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況	121
(2) 平成24年の区内刑法犯認知件数が1万件を下回ったことの認知	124
(3) 居住地域の治安状況	127
(4) 区内の治安が良いと感じる点	130
(5) 区内の治安が悪いと感じる点	132
(6) 治安対策として区に力を入れてほしいこと	134
(7) 駐輪時の鍵かけ状況	137
6. 環境・地域活動	143
(1) 環境のために心がけていること	143
(2) この1年間に参加した活動と今後の参加意向	145
(3) 区役所と区民・団体等との協力・連携（協働）した事業推進の評価	150
7. 「孤立ゼロプロジェクト」など	155
(1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況	155
(2) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知経路	158
(3) 「地域包括支援センター」の認知状況	159
(4) 「地域包括支援センター」の認知経路	162
(5) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向	163
(6) 協力意向がある活動内容	166
(7) 「成年後見制度」の認知状況	167
8. ユニバーサルデザイン	171
(1) ユニバーサルデザインの認知状況	171
(2) ユニバーサルデザインへの関心度	173
(3) ユニバーサルデザインに関することで行いたい取り組み	175
(4) ユニバーサルデザインを推進していく上で必要な取り組み	176
9. 区の取り組み	181
(1) 満足度と重要度	181
(2) 区政への区民意見の反映度	193
(3) 区に対する気持ち	196
(4) 区政についてのご意見、ご要望（自由回答）	206

(5) 本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度…………… 210

第4章 使用した調査票…………… 213

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、区政の各分野について区民の生活実態、意識や意向、意見や要望などを把握し、これを今後の区政運営に反映させることを目的としたものである。

2. 調査の内容

今回の調査では9項目について調査した。

- (1) 定住性
- (2) 大震災などの災害への備え
- (3) 区の情報発信のあり方
- (4) 健康
- (5) ビューティフル・ウィンドウズ運動
- (6) 環境・地域活動
- (7) 「孤立ゼロプロジェクト」など
- (8) ユニバーサルデザイン
- (9) 区の取り組み

3. 調査の設計

- | | |
|--------------|-----------------------|
| (1) 調査地域 | 足立区全域 |
| (2) 調査対象 | 足立区在住の満20歳以上の男女個人 |
| (3) 標本数 | 3,000サンプル |
| (4) 調査対象者の抽出 | 足立区住民基本台帳より単純無作為抽出法 |
| (5) 調査期間 | 平成25年9月1日(日)～9月25日(水) |
| (6) 調査機関 | (株)サーベイリサーチセンター |

4. 調査ブロック

図1 ブロック区分図

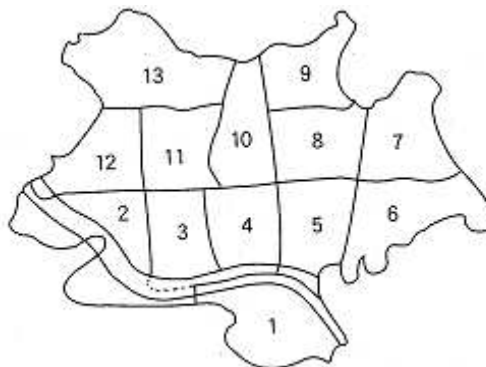


表1 調査ブロック-町丁目対応表

ブロック名	地 区 町 丁 目 名
第1ブロック	千住関屋町、千住曙町、千住東一丁目～二丁目、千住旭町、柳原一丁目～二丁目、日ノ出町、千住橋戸町、千住河原町、千住仲町、千住緑町一丁目～三丁目、千住宮元町、千住中居町、千住龍田町、千住桜木一丁目～二丁目、千住一丁目～五丁目、千住大川町、千住寿町、千住元町、千住柳町
第2ブロック	小台一丁目～二丁目、宮城一丁目～二丁目、新田一丁目～三丁目、鹿浜一丁目、堀之内一丁目～二丁目、椿一丁目、江北一丁目～五丁目、扇二丁目
第3ブロック	西新井本町一丁目～五丁目、扇一丁目、扇三丁目、興野一丁目～二丁目、本木一丁目～二丁目、本木東町、本木西町、本木南町、本木北町、西新井栄町三丁目
第4ブロック	西新井栄町一丁目～二丁目、関原一丁目～三丁目、梅田一丁目～八丁目、梅島一丁目～三丁目
第5ブロック	足立一丁目～四丁目、西綾瀬一丁目～四丁目、中央本町一丁目～五丁目、弘道一丁目～二丁目、青井一丁目～六丁目
第6ブロック	加平一丁目、綾瀬一丁目～七丁目、東綾瀬一丁目～三丁目、谷中一丁目～二丁目、東和一丁目～五丁目、中川一丁目～五丁目
第7ブロック	大谷田一丁目～五丁目、佐野一丁目～二丁目、辰沼一丁目～二丁目、六木一丁目～四丁目、神明一丁目～三丁目、神明南一丁目～二丁目、北加平町、加平二丁目～三丁目、谷中三丁目～五丁目
第8ブロック	西加平一丁目～二丁目、六町一丁目～四丁目、一ツ家一丁目～四丁目、保塚町、東六月町、平野一丁目～三丁目、保木間一丁目、保木間二丁目(12番を除く)、南花畑一丁目～三丁目、東保木間一丁目～二丁目
第9ブロック	花畑一丁目～八丁目、南花畑四丁目～五丁目、保木間二丁目(12番のみ)、保木間三丁目～五丁目
第10ブロック	西保木間一丁目～四丁目、竹の塚一丁目～七丁目、六月一丁目～三丁目、島根一丁目～四丁目、栗原一丁目～二丁目
第11ブロック	西新井一丁目～七丁目、谷在家一丁目、西伊興町、古千谷一丁目(7、12、13、18番地)、栗原三丁目～四丁目、西伊興一丁目～二丁目、伊興一丁目～三丁目、西竹の塚一丁目～二丁目(1～7番[4番21・23・24の一部・26、7番20の一部・21～22を除く])
第12ブロック	鹿浜二丁目～八丁目、椿二丁目、江北六丁目～七丁目、谷在家二丁目～三丁目、加賀一丁目～二丁目、皿沼一丁目～三丁目
第13ブロック	舎人一丁目～六丁目、入谷一丁目～九丁目、古千谷一丁目(4～5、8～11、14～17番地)、古千谷二丁目、古千谷本町一丁目～四丁目、西竹の塚二丁目(4番21・23・24の一部・26、7番20の一部・21～22、8～17番)、入谷町、伊興四丁目～五丁目、西伊興三丁目～四丁目、東伊興一丁目～四丁目、舎人町、舎人公園、伊興本町一丁目～二丁目

5. 調査方法

- (1) 調査方法 郵送配布郵送回収法（依頼状、督促状ともに1回）
 (2) 調査票 4章の調査票を使用

6. 回収結果

- (1) 標本数 3,000票
 (2) 有効回収数 1,962票 有効回収率 65.4%
 (3) 回収不能数 1,038票 回収不能率 34.6%

- (4) 地区別回収結果

表2 調査ブロックー地区別回収結果

ブロック名	20歳以上人口	構成比	標本数	有効回収数	有効回収率
区全体	557,879人	100.0%	3,000票	1,962票	65.4%
第1ブロック	62,557	11.2	331	215	65.0
第2ブロック	39,640	7.1	214	148	69.2
第3ブロック	35,552	6.4	192	121	63.0
第4ブロック	47,132	8.4	255	158	62.0
第5ブロック	51,462	9.2	278	180	64.7
第6ブロック	60,738	10.9	329	205	62.3
第7ブロック	44,793	8.0	242	159	65.7
第8ブロック	36,505	6.5	197	136	69.0
第9ブロック	27,353	4.9	148	92	62.2
第10ブロック	47,307	8.5	256	164	64.1
第11ブロック	35,501	6.4	191	132	69.1
第12ブロック	29,851	5.4	162	111	68.5
第13ブロック	39,488	7.1	205	139	67.8

(20歳以上人口は平成25年8月1日現在)

※有効回収数のうち2票はブロック不明

第1章 調査の概要

(5) 性別・年代別回収結果

表3 性別・年代別回収結果

性・年代	標本数	有効回収数	有効回収率
全 体	3,000票	1,962票	65.4%
男性（計）	1,530	901	58.9
20 代	209	85	40.7
30 代	269	129	48.0
40 代	313	170	54.3
50 代	227	145	63.9
60 代	249	174	69.9
70歳以上	263	198	75.3
女性（計）	1,470	1,019	69.3
20 代	172	85	49.4
30 代	251	174	69.3
40 代	277	176	63.5
50 代	180	144	80.0
60 代	222	191	86.0
70歳以上	368	247	67.1
無 回 答		42	

(注) この表での無回答は「性」を回答していない数を掲載している。また、「年代」においては、「性」を回答していても「年代」を回答していない方、又はその逆に「年代」を回答していても「性」を回答していない方がいるため、各年代の数を足し上げても「性」(計)の数とは一致しない。

7. 報告書の見方

- (1) 回答の比率(%)はすべて百分比で表し、小数点第2位を四捨五入した。そのため、百分比の合計が100%に満たない、または上回ることがある。
- (2) 基数となるべき実数は、nで表している。nは、回答者総数または該当設問の該当者数である。
- (3) 複数回答の設問は、各選択肢を1つだけでなく、2つ以上選択するため、各選択肢の合計数字が100%を超える場合がある。
- (4) グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (5) 性・年代などのクロス分析の場合、分析軸の「その他」、「無回答」を掲載していないため、調査回答者全員の人数より少なくなることがある。
- (6) 集計は、単純集計、フェイスシートとのクロス集計、設問間クロス集計の3種類を行った。
- (7) 問1の〈居住地域の評価〉における『そう思う(計)』のように、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」等の2つ以上の選択肢を合わせた項目の比率を表記する場合、その比率は、それぞれの選択肢の実数値を合計して、比率を再計算したものを使用している。
- (8) 標本誤差

標本誤差とは、今回のように全体(母集団)の中から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあるが、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、誤差を数学的に計算することが可能である。

今回の調査の回答結果から、母集団(足立区在住の満20歳以上の男女)全体の比率を推定するため、無作為抽出法の場合の標本誤差の〈算出式〉と〈早見表〉を示した。

標本誤差および〈早見表〉は、以下のように使用する。

例えば、問3の「あなたは、あなたのお住まいの地域について、暮らしやすいと感じますか。」という質問に対して、「暮らしやすい」と答えた人は、1,962人のうち23.7%であった。回答者数が1,962人、回答率が20%前後のときの標本誤差は、〈早見表〉では±1.81%であるから、「暮らしやすい」と考えている人は、足立区在住の満20歳以上の男女全体(母集団)の21.89%から25.51%であると推定できる。

〈標本誤差算出式〉

$$b = 2 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P(1 - P)}{n}}$$

<p>b = 標本誤差 N = 母集団数 (足立区の20歳以上人口) n = 比率算出の基数 (回答者数) P = 回答の比率 (0 ≤ P ≤ 1)</p>
--

〈 早見表 〉

回答の比率(P) 基 数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,962	± 1.35	± 1.81	± 2.07	± 2.21	± 2.26
1,000	± 1.90	± 2.53	± 2.90	± 3.10	± 3.16
800	± 2.12	± 2.83	± 3.24	± 3.46	± 3.54
600	± 2.45	± 3.27	± 3.74	± 4.00	± 4.08
400	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
200	± 4.24	± 5.66	± 6.48	± 6.93	± 7.07
100	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	±10.00

〈 早見表 - 性・年代別 〉

回答の比率(P) 基 数(n)		10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
全 体	1,962	± 1.35	± 1.81	± 2.07	± 2.21	± 2.26
男性 (計)	901	± 2.00	± 2.67	± 3.05	± 3.26	± 3.33
20 代	85	± 6.51	± 8.68	± 9.94	±10.63	±10.85
30 代	129	± 5.28	± 7.04	± 8.07	± 8.63	± 8.80
40 代	170	± 4.60	± 6.14	± 7.03	± 7.51	± 7.67
50 代	145	± 4.98	± 6.64	± 7.61	± 8.14	± 8.30
60 代	174	± 4.55	± 6.06	± 6.95	± 7.43	± 7.58
70歳以上	198	± 4.26	± 5.69	± 6.51	± 6.96	± 7.11
女性 (計)	1,019	± 1.88	± 2.51	± 2.87	± 3.07	± 3.13
20 代	85	± 6.51	± 8.68	± 9.94	±10.63	±10.85
30 代	174	± 4.55	± 6.06	± 6.95	± 7.43	± 7.58
40 代	176	± 4.52	± 6.03	± 6.91	± 7.39	± 7.54
50 代	144	± 5.00	± 6.67	± 7.64	± 8.16	± 8.33
60 代	191	± 4.34	± 5.79	± 6.63	± 7.09	± 7.24
70歳以上	247	± 3.82	± 5.09	± 5.83	± 6.23	± 6.36

(注1) Nはnより非常に大きく、 $\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$ とみなせるので、 $\frac{N-n}{N-1} = 1$ として計算した。

(注2) 「年代」においては、「性」を回答していても「年代」を回答していない方、又はその逆に「年代」を回答していても「性」を回答していない方がいるため、各年代の数を足し上げて「性」(計)の数とは一致しない。

(9) 分類した項目の定義

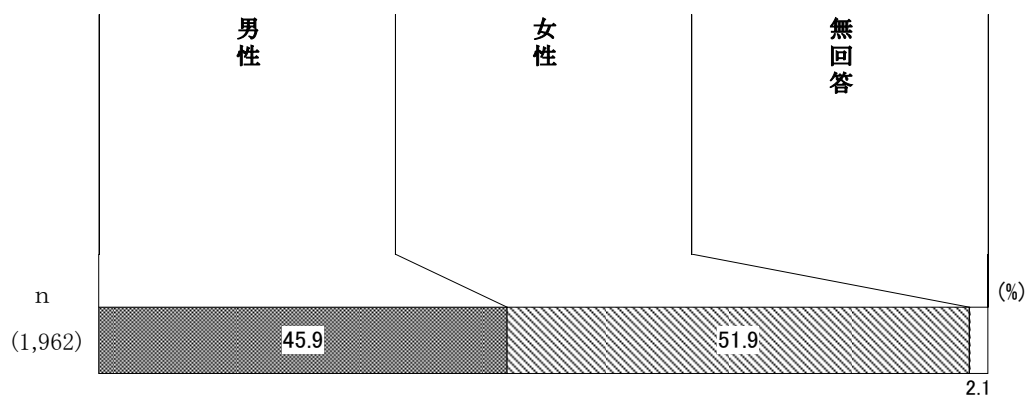
質問に対して、分類（表側）に使用した項目は以下のとおりである。

- ① 地域ブロック別……（13カテゴリ）
- ② 性別……（2カテゴリ）
- ③ 性・年代別……（12カテゴリ）
- ④ ライフステージ別……（7カテゴリ）
 - ・独身期 40歳未満の独身者
 - ・家族形成期 40歳未満で子どものいない夫婦、または本人が64歳以下で一番上の子どもが小学校入学前の人
 - ・家族成長前期 本人が64歳以下で一番上の子どもが小・中学生の人
 - （家族成長小学校期） 本人が64歳以下で一番上の子どもが小学生の人
 - （家族成長中学校期） 本人が64歳以下で一番上の子どもが中学生の人
 - ・家族成長後期 本人が64歳以下で一番上の子どもが高校生・大学生の人
 - ・家族成熟期 本人が64歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人
 - ・高齢期 本人が65歳以上の人
 - （一人暮らし高齢者） 本人が65歳以上で一人暮らしの人
 - （夫婦二人暮らし高齢者） 本人が65歳以上で夫婦二人暮らしの人
 - （その他の高齢者） 本人が65歳以上で一人暮らし、夫婦二人暮らし以外の人
 - ・その他壮年期 本人が40歳～64歳で独身、または本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
 - （壮年独身者） 本人が40歳～64歳で独身
 - （壮年夫婦のみ者） 本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
- ⑤ 住居形態別……（8カテゴリ）
- ⑥ 職業別……（8カテゴリ）
- ⑦ 就労（就学場所）別……（6カテゴリ）
- ⑧ 居住年数別……（5カテゴリ）

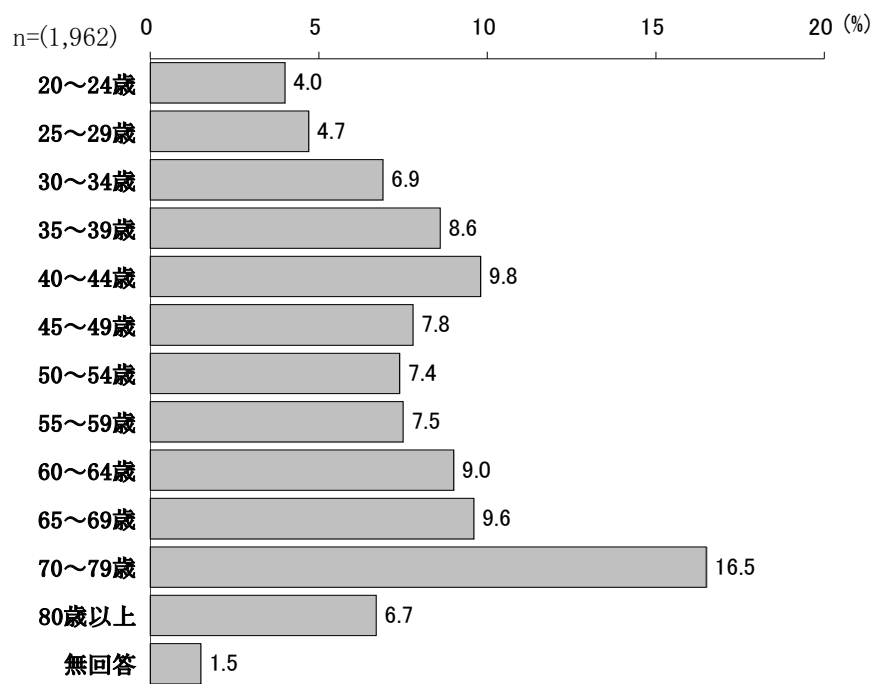
※本文中、表側に使用した項目の回答者数が少ない選択肢は誤差が大きいため、分析の対象としていない場合がある。

8. 標本構成

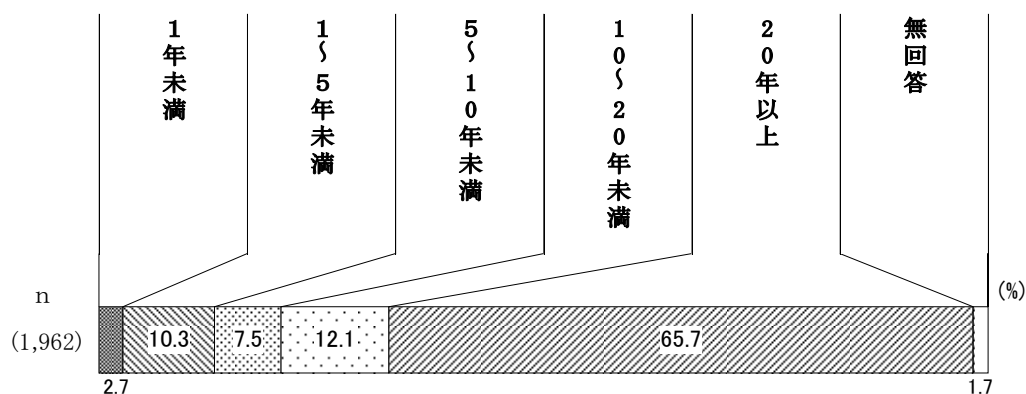
F1 性別



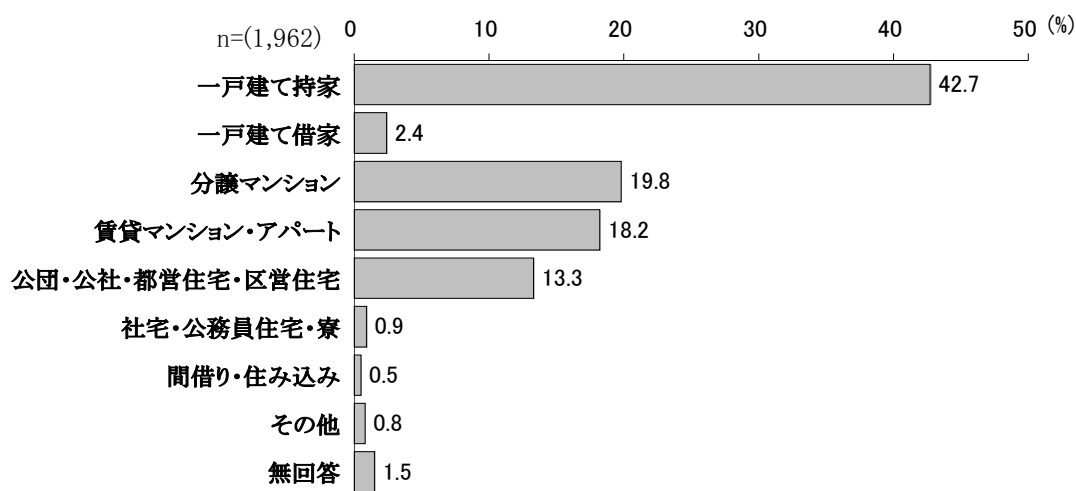
F2 年齢



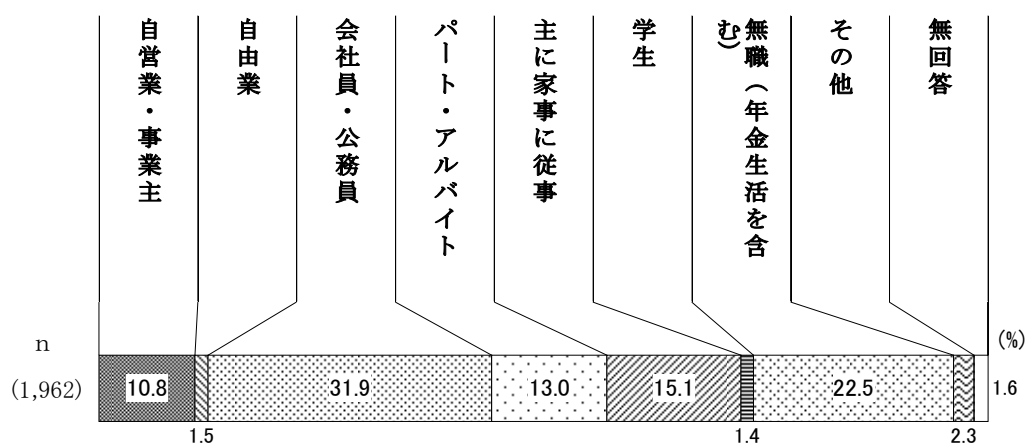
F 3 居住年数



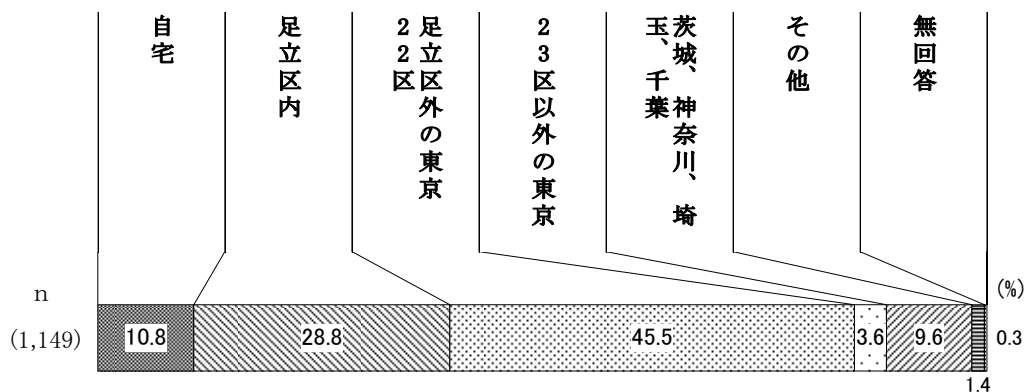
F 4 住居形態



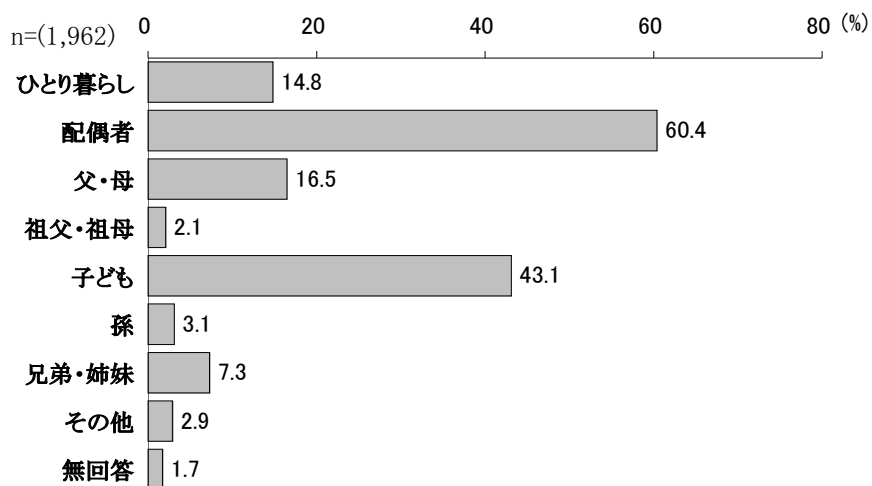
F 5 職業



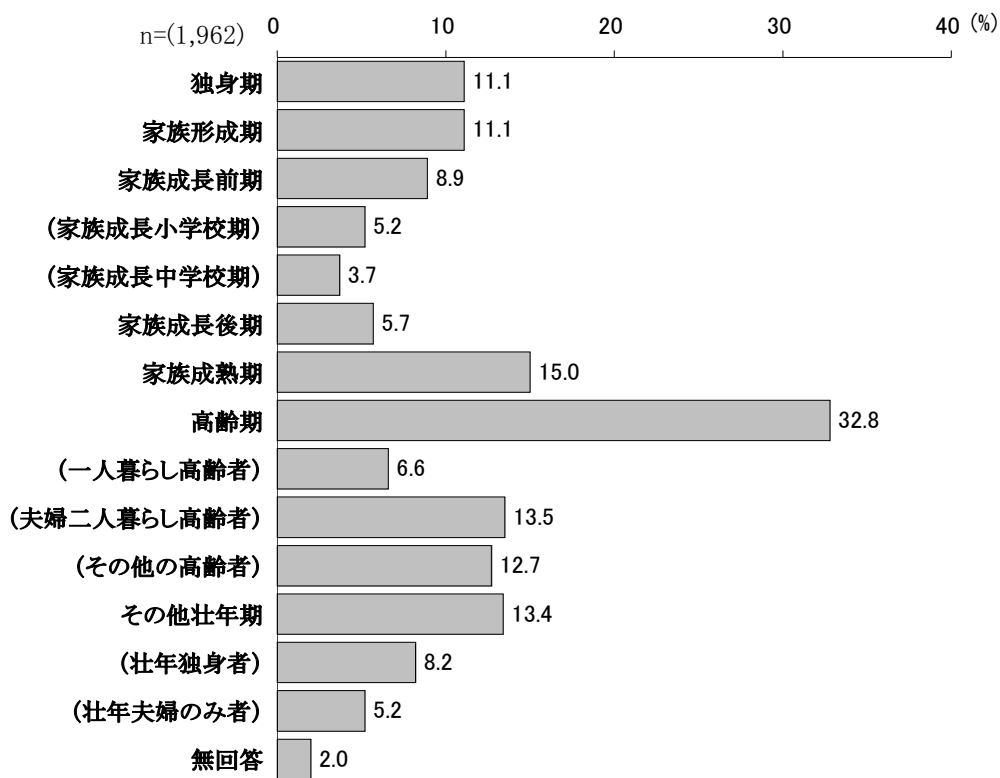
F 6 就労、就学場所



F 7 同居家族（複数回答）



F 8 ライフステージ



第2章 調査結果の要約

1. 定住性

居住地域の評価については、〈通勤や通学などの交通の便がよい〉〈普段の買い物が便利である〉など多くの項目で、平成24年度調査結果に比べて、肯定的な評価（「思う」＋「どちらかといえば思う」）が増加しており、全体として区民の居住環境への評価は着実に高まってきている。しかしながら、〈自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている〉は、肯定的な評価が増加しているとはいえ、依然として、否定的な評価（「どちらかといえば思わない」＋「思わない」）が6割を超えており、今後も区民のマナー意識の向上が求められる。

また、〈まちなかの花や緑〉や〈防犯パトロール〉など、環境面、防犯面については、平成24年度調査に比べて、【増えている】（「どちらかといえば増えている」＋「明らかに増えている」）が、いずれも今回20.0ポイント以上増加しており、取り組みの成果が顕著に現れた結果となっている。

一方、〈ごみやタバコのポイ捨て〉〈ペットの糞〉については、いずれも【減っている】（「明らかに減っている」＋「どちらかといえば減っている」）は、ほぼ横ばいとなっており、こうした区民のマナー意識の一層の向上が求められる。

このように、居住地域の利便性の良さ、環境面、防犯面の取り組みなどへの評価が高まる中であって、区の暮らしやすさへの評価は、今回も【暮らしやすい】（「暮らしやすい」＋「どちらかといえば暮らしやすい」）との評価は8割近くを占めている。

しかしながら、地域ブロック別でみると、第2、第9、第12ブロックのように【暮らしやすい】がやや低く、【暮らしにくい】（「どちらかといえば暮らしにくい」＋「暮らしにくい」）が、3割前後と他のブロックより高くなっている地域もあり、今後は、こうした地域差を解消していくことが重要である。

また、【定住意向】（「ずっと住みたい」＋「当分は住みたい」）についても、平成21年以降、毎年75.0%を超えて、高い水準で推移しており、暮らしやすさへの高い評価とほぼ対応した結果となっている。その一方で、第12ブロックのように、【定住意向】が7割を下回るブロックもある。

今後は、評価の低い分野への取り組みを一層強化し、地域の別なく、区の暮らしやすさへの評価を向上させ、区民の定住意向を強めていくことが課題である。

2. 大震災などの災害への備え

東日本大震災から約2年半が経過したが、区民の防災意識や日頃の備えはどのようなになっているのだろうか。

備蓄や防災用具、買い置きなどの用意については、【備蓄・買い置きあり】（「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」＋「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」）は、平成24年度調査結果の73.9%から、今回68.3%へと低下し、とくに「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」が1割近く減少している。

このように、年月の経過とともに、区民の防災への意識がやや低下しており、今後も区民の防災意識を高めていくよう、日頃から啓発していくことが重要である。

備蓄や防災用具、買い置きなどの内容としては、「水」「食料」「あかり」が8割を超えて高くなっているのに対して、「医薬品（常備薬を含む）」は4割強、「救急セット」「簡易トイレ」は2割前後に留まっており、備蓄内容には大きな差がある。

また、水と食料の備蓄量については、いずれも「1日分以上3日分未満」が4割を超えて高くなっており、「3日分以上1週間分未満」は2割台、「1週間分以上」は1割前後に留まっている。

今後は、医療やトイレをはじめとして、備蓄内容をより充実させるとともに、水や食料の備蓄量についても、国の「最低3日分、可能であれば1週間」という目標に少しでも近づくよう、区民の取り組みを促進していくことが重要である。

とくに、災害時の水や食料の確保については、「考えていない」「通常どおりスーパーなどで購入する」と回答している人が、若い世代を中心として、かなりの数に上っている。こうした区民に対して、物流の停止など災害時にどのような事態が生じるのかについて、情報を提供し、日頃から災害への備えをしてもらうように働きかけていくことが必要である。

家具類の転倒・落下・移動防止対策については、【対策実施・多い】（「すべての家具類に対策を行っている」＋「対策をしている家具類が多い」）は、平成23年度調査結果の19.0%から、今回27.9%へと増加しているものの、依然として3割弱に留まっている。【少ない・行っていない】（「対策をしている家具類は少ない」＋「対策を行っていない」）人は、その理由として、「面倒である」や「建物の壁にキズをつけたくない」と回答する人が、いずれも2割を超えており、地震の際の家具転倒の危険性について十分に認識をもっていないことがわかる。

最後に、大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこととしては、「水・食料等災害用備蓄の充実」「ライフラインやエネルギーの確保」「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」の3項目が、いずれも5割を超えて、とくに高くなっている。この中で、「ライフラインやエネルギーの確保」は、行政の当然担うべき役割であるが、「水・食料等災害用備蓄」や「非常用トイレの確保など衛生対策」については、行政だけではなく、区民自身の取り組みも重要であり、区民と行政がそれぞれの役割分担を明確にしながら、連携して災害時の備えを充実させていくことが求められる。

3. 区の情報発信のあり方

区に関する情報の入手手段としては、「あだち広報」が79.7%と際立って高くなっており、性・年代別にみても、男女各年代にわたって、高い比率を示している。また、中高年層を中心として、「町会・自治会掲示板・回覧板」も3割台から5割台と高くなっている。

その一方、30代、40代のとくに女性で、「インターネット」の比率が5割を超えている。

こうしたことから、「あだち広報」のような紙媒体の重要性を再認識し、その内容の一層の充実を図るとともに、インターネットを利用して、自ら積極的に情報を得ようとする区民に対しても、適切な情報を発信していくことが必要である。

次に、区が発信する必要がある情報としては、「検診や生活支援など健康や福祉に関する情報」「国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報」「災害や気象に関する情報」の3項目が、いずれも5割を超えて、とくに高くなっている。書類手続きなどを別にすれば、区民の最大の関心事が、健康・福祉と防災にあることがわかる。

だが、こうした情報が必要な時に得られているか聞いたところ、【得られる】（「十分に得られている」＋「ある程度得られている」）が6割を超えているとはいえ、【得られない】（「得られないことが多い」＋「まったく得られない」）と「わからない」がいずれも2割近くを占めている。とくに、20代男女で「わからない」が4割前後と、区政への関心の低さをうかがわせる結果となっている。

また、【得られない】理由としては、「情報が探しにくい」が5割を超えている。

今後は、誰もが必要な情報を得られるよう、情報の発信方法を一層工夫していくとともに、区政に対する関心の低い層への情報提供のあり方を検討していくことが重要である。

4. 健康

糖尿病という病気についての認知度は、【知っている】（「知っている」＋「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」）が98.6%と極めて高くなっている。性・年代別でも、性別、年齢にかかわらず、その認知度は極めて高い。

しかしながら、糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいについては、「失明」が73.2%と高くなっているのをはじめとして、「足の壊疽」「口の渇き」「人工透析」については4割を超えているものの、「心筋梗塞」「脳梗塞」「網膜症」については3割前後に留まっている。こうしたことから、糖尿病という病気についての認識は広まっているものの、その合併症の危険性についての認識はまだ十分でないことがわかる。今後は、糖尿病のもつ恐ろしさについて、さらに情報の提供や啓発に力を入れていくことが重要である。

糖尿病の予防には、「食事の際に野菜から食べ始めることが効果的である」と言われているが、このことを【知っている】（「知っている」＋「詳しくは知らないが、聞いたことがある」）は72.5%、糖尿病の認知度と同様に、高い認知度を示している。しかしながら、性・年代別でみると、男女とも20代では、認知度が低くなっていることから、若い世代に糖尿病の予防の大切さや、その具体的な方法を伝えていくことが重要である。

また、野菜の摂取量については、「1日350g以上」が目標とされているが、実際に、【できている】（「できている」＋「まあできている」）は40.5%と5割以下になっており、とくに、20代から50代の男性、20代の女性で低くなっている。今後は、この年代を中心として、健康維持のための野菜摂取の重要性を啓発していくことが重要である。

次に、体調や習慣についてみると、〈現在の健康状態はよい〉〈安心して受診できる医療機関が身近にある〉については、6割台半ばが「あてはまる」と回答しており、区民の多くは健康であり、医療環境にも恵まれていると考えていることがわかる。しかし、日頃の生活の中では、50代をはじめとして男性のすべての年代で、3割以上の人に喫煙習慣があるとの結果が出ている。

最後に、健康維持のために実行している、心がけていることとしては、「毎日朝ごはんを食べている」「毎年健康診断を受けている」が6割を超えて高くなっている。

また、「毎食、野菜料理を食べるように心がけている」も45.1%と高くなっている。

しかしながら、「主食、主菜、副菜をそろえて食べるように心がけている」は、平成24年度調査結果の52.0%から、今回42.0%へと10ポイント低下している。前述したように、「1日350g以上」の野菜を摂っている人が5割に満たない現状を考え合わせると、今後も野菜の摂取も含めて、バランスのとれた食生活を送ることの重要性を、さらに区民に周知させていくことが求められる。

5. ビューティフル・ウィンドウズ運動

ビューティフル・ウィンドウズ運動については、【知っている】（「知っていて、活動を実践している」＋「知っているが、特に何も行っていない」＋「名前は聞いたことはあるが、内容はわからない」）は、平成22年度以降、毎年増加傾向にあり、この運動が徐々にではあるが着実に区民に認知されてきていることがわかる。

しかしながら、駅中心部に比べて周辺部で、また、男女とも20代、50代で認知度が低いという結果が出ていることから、町会・自治会の協力や各種情報媒体を通じて、さらにこの運動の周知をしていくことが求められる。

また、居住地域の治安状況については、平成24年度調査結果では、【悪い】（「悪い」＋「どちらかといえば悪い」）が、【良い】（「良い」＋「どちらかといえば良い」）を僅かに上回っていたのに対して、今回は、【良い】（「良い」＋「どちらかといえば良い」）が、【悪い】（「悪い」＋「どちらかといえば悪い」）を10ポイント近く上回っており、治安に対する意識は改善されつつあることがわかる。

しかしながら、主要駅近くでは、依然として【悪い】との評価も高くなっていることから、引き続き、ビューティフル・ウィンドウズ運動や防犯パトロール等に取り組んでいくことが重要である。

治安対策として区に力を入れてほしいこととしては、「防犯カメラなど防犯設備の設置等に対する支援」「安全・安心パトロールカーによる防犯パトロール」「安全に配慮した道路、公園の整備」の3項目が、いずれも4割を超えて高くなっている。治安を【悪い】と感じる人では、「自転車盗難・空き巣などの多発」や「深夜の公園やコンビニでの若者のたむろ」を理由としてあげる人が多いが、こうした状況を改善するため、様々な取り組みを区民と行政、関係機関が協力してさらに推進していくことが求められる。

6. 環境・地域活動

環境のために心がけていることとしては、「ごみと資源の分別を実行している」が、平成22年度以降、毎年8割台半ばを超えており、こうした取り組みが、ほぼ区民の間に定着したことがわかる。また、「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」は、平成24年度調査結果の47.3%から、今回52.9%へと増加している。

しかしながら、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」は、平成24年度調査結果の67.4%から、今回57.1%へと10ポイント以上低下している。こうした背景には、震災をきっかけに省エネ行動の重要性を意識したものの、年月の経過とともに、こうした意識が薄れてきたことが考えられる。今後も、省エネルギーのための行動の大切さを、継続的に周知していくことが重要である。

また、性・年代別でみると「ごみと資源の分別を実行している」、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」は、男女とも20代から30代で比率が低下しており、若い世代に環境の維持のための取り組みを働きかけていくことが重要である。

次に、この1年間に参加した活動をみると、平成24年度調査結果に比べて、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」は増加し、反対に、「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」は低下している。また、今後の参加意向をみても、この傾向は同様であり、地域の町会等の活動に対する区民の関心が低下していることがわかる。

とくに、20代の男女に、こうした傾向が顕著に現れており、町会等の催し物を区民誰にとっても魅力的なものへと変えていくことが必要と思われる。

最後に、区役所と区民・団体等との協力・連携（協働）した事業推進の評価については、【そう思う】（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が、平成24年度調査結果の20.2%から、今回30.0%へと増加している。しかしながら、「わからない」という回答が、5割近くを占めており、区役所と区民・団体等との協力・連携（協働）した事業の内容やその進捗状況を広く、区民に伝えていくことが重要であると考えられる。

7. 「孤立ゼロプロジェクト」など

「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況をみると、【知っている】（「知っていて、内容も概ね理解している」＋「聞いたことはあるが、内容はわからない」）が29.8%と約3割を占めている。

地域ブロック別でみると、第5、第9ブロックでは【知っている】が約4割と高く、性・年代別でみると男女とも60代、70歳以上で高くなっており、地域や年齢によって、かなりの差がある。

その認知経路としては、「あだち広報」が7割近くを占め、際立って高くなっている。

今後は、「あだち広報」のみならず、町会・自治会、民生委員などと連携して、区民すべてに、このプロジェクトを認知してもらうことが重要である。

また、高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向をみると、【協力したい】（「積極的に協力したい」＋「負担にならない範囲で協力してもよい」）は約2割を占めている。地域ブロック別でみると、第5、第7ブロックでは【協力したい】が2割台半ばと、他のブロックより高く、性・年代別でみると、男女とも60代、70歳以上で2割を超えて、高くなっている。協力意向のある人では、「寄り添い支援活動」「居場所づくりや活動の場での協力」に協力したいという回答が、いずれも4割を超えている。

今後の地域福祉を推進する上で、地域の支え合いにより、高齢者や障がい者の孤立を防ぎ、様々な支援をしていくことは極めて重要なことであり、地域や年齢を問わず、広く区民にこの活動の内容とその意義を周知し、活動への参加を促進していくことが求められる。

また、認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者などの人権を擁護するための成年後見制度が注目されている。この制度を【知っている】（「内容まで知っている」＋「名前は知っているが、内容はわからない」）は、平成24年度結果の40.8%から、今回55.1%へと大幅に増加しており、区民の関心の高まりを裏付ける結果となっている。

今後は、さらに成年後見制度の内容の周知と利用促進を図るとともに、成年後見人の育成と確保に力を入れることが重要である。

8. ユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザインについては、【知っている】（「具体的な取り組み事例なども知っている」＋「言葉の意味は知っている」＋「言葉を聞いたことがある」）は43.0%である。性・年代別で見ると、男女とも20代から50代に比べて、60代、70歳以上の【知っている】が低くなっている。

また、ユニバーサルデザインへの関心度をみると、【関心がある】（「非常に関心がある」＋「少しは関心がある」）は30.4%であり、性・年代別で見ると、認知度と同様に男女とも60代、70歳以上の関心度が低くなっている。

このように、近年、バリアフリーという考え方は広く浸透してきたものの、ユニバーサルデザインという考え方については、まだ広く区民に認知されておらず、関心度も高くないことがわかる。今後は、ユニバーサルデザインという考え方の重要性について様々な機会や場を通じて、啓発していくことが必要である。

とくに、ユニバーサルデザインに【関心がある】という人では、今後、「地域のお年寄りや障がいのある人などの手助けや心配りに努めたい」や「地域の人と一緒に、日常生活上の不便や不安に思われるところを見つけ、改善したい」が高くなっており、この考え方の広まりが、地域福祉の推進に大きな意味を持つことは明らかである。

最後に、ユニバーサルデザインを推進していく上で必要な取り組みを聞くと、「UDを取り入れたまちづくりや施設整備」「UDに関する情報提供」「UDに関する教育や人づくり」が上位を占めており、ハード面の整備とともに、関連情報の提供と人材の育成が求められていることがわかる。

9. 区の取り組み

これまでも、区政満足度を調査しているが、区政満足度だけをきくと、国政や都政の影響を避けられず、また不満、満足の理由もわかりにくいため、今回の調査から区政の各分野の満足度を尋ねた上で総合的な満足度を聞く形式に改め、調査を実施した。

区政の各分野への「満足度」と「重要度」の意識に得点をつけ、評価点を算出することにより、その時々々の区民の意識を明確に捉え、分析することができる。これにより、分野ごとの評価がどのように区政全体の満足度の評価に影響するかを把握し、その結果を今後の区政満足度向上に結びつけていく。

区政に対する【満足層】（「満足」＋「やや満足」）は、上記のように調査方法を変更したため、単純な比較はできないが、平成24年度調査結果の51.0%から今回59.1%へと増加しており、全体として、区政への満足度は高まってきているといえる。

しかしながら、このことは、区政のすべての分野について、区民が満足していることを示しているわけではない。

区の各分野への取り組みへの現状評価（満足度）と重要度の関係を数値化（算出方法の詳細は186頁を参照のこと）してみると、「重要度が平均値より高いが、現状評価（満足度）が、平均値より低い」分野、つまり、今後、重点的に取り組む必要のある分野は、「防災対策」「治安対策」「交通対策」「高齢者支援」であるとの結果が出ている。

前述した調査結果においても、区に対する災害への備えや治安向上に向けた取り組みへの要望、高齢者の孤立防止や見守り、日常生活での各種支援への関心の高まりは明らかのように、上記の結果は、区民が今、区政に何を求めているかを、端的に表しているといえるだろう。

また、区に対する気持ちを〈足立区に愛着をもっている〉〈足立区に誇りをもっている〉〈足立区を人に勧めたい〉の3項目に分けて聞くと、いずれの項目についても、【そう思う】（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が、ここ数年上昇傾向にあるものの、「愛着」（73.7%）の高さに比べて、「誇り」（45.2%）と「勧めたい」（42.6%）は5割以下に留まっている。

区政満足度が高まれば、区への愛着、誇り、そして「足立区を人に勧めたい」とも増加しており、両者の間の相関関係は明らかである。また、愛着度が高まれば、区への誇りも高まるという結果も出ている。

今後は、「防災対策」「治安対策」「交通対策」「高齢者支援」などの重点的課題の解決に積極的に取り組むことによって、区民の区政満足度をさらに向上させ、区民の誰もが足立区に愛着をもち、誇りをもって、足立区を人に勧められるような「まち」へと発展させていくことが、区民と行政の双方に求められているといえよう。

